

## 松浦市国際親善協会

松浦市国際親善協会は、市民主体の国際交流を支援していこうと平成2年5月に発足しました。

発足以来、姉妹都市のマッカイ市との交流事業を中心に、松浦市青少年親善使節団や松浦市民親善訪問団の派遣、マッカイ市青少年使節団やマッカイ市親善訪問団の受け入れなど、さまざまな活動を行っています。

また、交流事業以外にも、「1日インターナショナル・スクール」、「世界のクッキング講座」、「英会話教室」、「日本語ボランティア」なども開催しています。



①



③



②

①世界のクッキング講座

②日本語ボランティア

③1日インターナショナル・スクール

## インタビュー

## INTERVIEW



国際交流担当(松浦市まちづくり推進課) 橋本淳子さん(右)

姉妹都市提携を行った翌年から、市の国際交流を担当しています。最初は手探りで始まった交流も、多くの人の熱意と協力によって、これまで両市民あわせて1,000人を超える人が事業に参加してくれました。この25年間を振り返って思い出するのは、参加者の笑顔です。特に、過去に青少年使節団で参加した生徒の皆さんから、まちで声をかけられたり、メールをもらったりするととても嬉しく、さあ、今年はどんな子どもたちが参加してくれるだろうと、この時期になるとワクワクします。

マッカイ市と松浦市の間には、この25年間の交流によって生まれた大きな「信頼」があります。これまでの参加者が楽しめてくれたこの「信頼」を大切にしながら、両市民の間で新たな友情が生まれることを願っています。



国際親善協会会員 田中光子さん(左)・田中輝久さん(右)

年度は別々ですが、青少年使節団の引率者をお互いが経験してから、わが家の姉妹都市交流は始まりました。

最初は戸惑いもありましたが、マッカイ市の皆さまの笑顔やホームステイ先のご家族の温かさへ接し、言葉の壁を越えた貴重な体験ができ、遠い国が近くへと変わっていった気がします。

これからはアジア・太平洋の時代といわれます。松浦市の多くの子どもたちがこの機会を生かし、国際人としての資質を身に付けて欲しいと思います。

私たちもこの歴史ある姉妹都市交流に微力ではありますが、これからも協力していきたいと思っています。



平成26年度青少年親善使節団引率者 角田知子さん(前列左)

私は中学2年生の時と昨年8月にマッカイ市を訪問しました。

青少年親善使節団員としての一度目の訪問では、体験するすべてのことが新鮮で、異文化と語学に興味を持つきっかけとなりました。青少年親善使節団の引率者としての二度目の訪問では、松浦市民を歓迎してくださるマッカイ市の皆さまの温かさや両市が築いてきた絆の深さを感じました。

姉妹都市交流の素晴らしいところは、気負わずに異文化交流ができること、市民同士が親睦を深め合えることだと思います。国は違っても、互いの郷土の良さを理解し絆を深め合う友との出会いの機会として今後も姉妹都市交流が活発に行われることを願っています。



## マツカイ市青少年使節団の受け入れ

毎年、9月下旬の春休みを利用して、マツカイ市から高校生が1週間、松浦市を訪れています。滞在中は市民宅にホームステイをしながら、学校訪問、発電所見学、長崎市の平和公園・原爆資料館見学などを行っています。初日は緊張気味の団員も目を追うごとにホストファミリーとも仲良くなつて、松浦を出発する時には、涙を流して別れを惜しむ姿が見られます。

## インタビュー

## INTERVIEW



マツカイ市  
 明子・ドゥーランさん

福岡からマツカイに引っ越して今年で20年。初めて松浦との姉妹都市交流に関わり始めたのもそのころです。

松浦とマツカイの交流でいつも強く思うことは、言葉や見た目が違っても、お互いを理解し、大切に思えるということです。松浦市民の心の温かさをいつも痛感しています。交流のお手伝いをするにあたり、大切にしている事は、ほんの小さな誤解があったらそれをできる限りなくすということです。

今後、市民や青少年訪問を通してさらに交流を深め、世界中にどこにもないような強い関係を作っていければと思います。



マツカイ市  
 マーガレット・ブラウンさん

松浦は私にとって第二の故郷です。互いの市を往来する交流は、友情を育むために非常に重要な役割を果たしていると思います。

また、両市長をはじめ多くの市民の力強い支援のおかげで、姉妹都市の関係が強くなっています。私は松浦に行ってホームステイができたので、すぐに友人ができて幸運でした。将来、松浦市民訪問団の皆さんも青少年と同じように一般家庭にホームステイができれば良いと思います。英語ができないと心配される人もいますが、きっと楽しい交流になると思います。今後さらに、マツカイ市民の姉妹都市関係に対する意識が高まることを願っています。そして、マツカイとの交流によって、松浦の経済にも利益がもたらされることを願っています。



マツカイ市  
 カーラ・スティーンさん

マツカイ市からの最初の留学生として松浦に行くことができて本当に幸運でした。素晴らしい経験をし、生涯の友ができ、その後の私の人生を変えてくれました。私の日本の家族、下條さんはとても親切で、日本の生活様式や文化、松浦市など、いろいろと教えてくれました。この経験は私の人生にとって大切なもので、とても感謝しています。

私は大学で日本語を勉強して教師になり、その後テレビやラジオのジャーナリストになりました。日本や諸国についてずっと興味を持ってきました。私は皆さんに交流に参加することを強くお勧めします。私の5歳の娘アイスリンも大きくなったら、何か特別なことを経験させてあげたいと思っています。

1990年の留学以来、何度も松浦を訪れました。近い将来、家族と一緒に松浦に行き、松浦の家族や友達を紹介したり、美しい景色を見せてあげたいです。